2021 年 3 月 19 日

２０２１春季生活闘争 統一回答指定日を終えての談話

日本食品関連産業労働組合総連合会
事務局長　佐藤　宏哉

１．2021 春季生活闘争は、賃金の引き上げと働き方の見直しを同時に推し進める闘いである。特に、エッセンシャル・ワーカー（社会的に必要不可欠な仕事に携わる労働者）である食品関連産業で働く労働者の処遇を働きの価値に見合った水準にしていくため、今闘争は極めて重要であり、社会的要請として賃上げを広く波及させていかなければならない。

２．ヤマ場である 3 月 16～18 日を含む第 1 先行組合回答ゾーン（3 月 15～19 日）を経て、連合が 3 月 19 日に公表した集計結果は、平均賃金方式・加重平均で 5,563 円・1.81％（昨年対比－278 円）であった。

３．フード連合の 3 月 19 日 15 時現在の集計結果は、平均賃金方式・加重平均では 36 組合 6,063 円・1.91％（昨年同期比－24 円）とわずかに下回るものの、賃上げの取り組みの広がりを示す単純平均では 6,056 円・2.07％（昨年同期比＋353 円）と昨年を上回る額で推移しており、中小労組では大手組合を上回る 6,419 円・2.47％（昨年同期比＋1,673 円）と目覚ましい成果を獲得している。この結果は、翌週以降に交渉が控えている加盟組合にとって賃上げのうねりに繋がる大きな成果を引き出したと捉えている。

　今次春闘における賃金の引き上げの必要性については、経営側と労働組合側の考え方は基本的に一致している。コロナ禍における現場の頑張りに応えるべき状況も理解しているが、経済や事業の先行き不透明感を理由に厳しい交渉、回答となっている。しかし、むしろこのような時だからこそ、食品関連産業で働く我々が産業・企業規模・雇用形態間格差を是正する社会的意義を踏まえ、毅然とした態度で経営と向き合い、職場の頑張りとこれまでの成果を余すところなく自信をもって伝え、粘り強い交渉を展開し、勝ち取らなければならない。

４．3 月月内決着に向けた第二のヤマ場を迎える。厳しい中でも勝ち取った先行組合では、業績の好不調といった短期的な企業性の視点のみならず、コロナ禍においても安全・安心な製品を安定的に供給し続けた現場の頑張り、それに伴う労働の質的向上により将来に渡る成果創出が見込まれること等を主張しながら成果に繋げている。今だからこそ必要な、「すべての働く者」を中心においた力強い交渉を要請する。また、グループ大手組合や業種別部会等の大手組合は、関連する中小労組に対して更なる支援体制を強化すると共に、事務局は中小労組支援戦略・戦術に則り、情報収集・発信、及び具体的な支援によって成果の最大化に繋げる。

　すべての組合が“全組合員の思い”を背にこだわって取り組み、フード連合に集う仲間の力を総結集して、2021 春季生活闘争に勝利すべく、ともにがんばろう。

以　上